

令和4年度 大分県普及指導活動外部評価結果

1 外部評価の目的

普及指導活動を一層効果的に実施するために、振興局及び農業革新支援センターで実施した普及指導活動の成果等について、幅広い外部の視点から客観的な評価を受け、その結果を次年度以降の計画に反映させることを通じて、普及指導活動及びその体制の改善を行う。

2 外部評価の対象

(1) 対象年度

令和3年度及び令和4年度の普及指導活動

(2) 評価項目

普及指導課題の設定、普及指導計画の作成、普及指導活動の経過と成果、普及指導活動体制

(3) 対象課題

県下6振興局から各1課題、広域普及指導員（農業革新支援専門員）1課題の計7課題

3 外部評価委員

8名（先進的な農業者、農業関係団体、消費者、マスコミ、民間企業）

4 評価結果

(1) 課題別

所属	課題名	課題の設定	計画の作成	経過と成果
東部振興局	いちご産地の生産力の強化	優れている	優れている	非常に優れている
中部振興局	集落営農の組織力及び経営力の強化	優れている	優れている	優れている
南部振興局	市場の信頼を勝ち取るキク産地の育成	優れている	優れている	優れている
豊肥振興局	白ねぎ大規模生産者の育成と地域内作業受託体系の構築	優れている	優れている	非常に優れている
西部振興局	新たな園芸産地の育成	優れている	優れている	優れている
北部振興局	実需ニーズに対応した北部地域茶産地の生産体制の強化	優れている	非常に優れている	非常に優れている
広域普及指導員	ベリーツ産地の生産力の強化	優れている	優れている	優れている

(2) 総合所見

課題名	組織的かつ継続的活動体制	関係機関との連携状況
普及指導活動体制	優れている	優れている

5 外部評価委員による意見、改善の提言等

別添「(様式4号)普及指導活動改善内容整理表」参照

普及指導活動改善内容整理表

(所属名) 東部振興局

<p>【課題名】 いちごの産地の生産力の強化 (世代交代の促進と「ベリーツ」の普及による産地活性化)</p>
<p>【外部評価委員の意見、改善の提言等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パッケージセンターは有望な取組みであるが、生産性を高めないと利益が確保できなくなる。利益を高めるための対策が必要である。 ・生産者の法人化を進めると若い人の面積拡大に繋がるのではないか。 ・初期費用の負担が大きくなっているため、周年で収益が確保出来る体制が必要ではないか。
<p>【意見、提言に対する対応方向等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労力のかかる選別調整を外部化することで、規模拡大農家の労働力不足や就農初期の栽培管理労力の不足を解消し、生産性を向上させることで、外部化経費を上回る利益確保を見込んでいます。 ・現在、若い生産者の栽培面積は20～30aと家族労力主体であり、法人化のメリットが出にくい規模です。杵築のいちご経営では、法人化と面積拡大はセットの取組であり、今後パッケージセンターの活用や施設継承により規模拡大を行い、法人化する生産者を育成していきます。 ・いちご栽培では、夏期の収益確保は長年の課題ですが、夏期は育苗作業があり、余剰労力は多くありません。そのため、夏期になすやバジルを栽培している生産者は少数です。引き続き、育苗作業とのバランスをとりながら夏期栽培品目の導入、育苗の外部委託体制の検討、いちごの作期延長を検討する必要があると考えています。
<p>【質問事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パッケージセンターの利用が20%を超えた場合の次の方向性は考えているか。 ・労働力の確保についてどう対策していくか？
<p>【回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パッケージセンターの利用は、今後伸びていく可能性が想定されており、施設の間仕切りを動かせるようにし、拡張できるように設計しています。利用希望量がパッケージセンターの処理量を超えた場合は、運営主体のJAやパッケージセンター利用者と協議し、拡張工事を実施し対応していく予定です。 ・パッケージセンターの労働力確保については、運営主体のJAが主となり行っています。普及としては、作業員の募集方法の提案や、JAが実施する集荷場内での余剰労力や他品目の調整場との労力シェアが円滑に進むよう支援を行います。取扱量が増加した場合は、箱折り作業を福祉事務所など外部へも委託することも検討しています。

普及指導活動改善内容整理表

(所属名) 中部振興局

<p>【課題名】 集落営農の組織力及び経営力の強化 (南田代地区の経営多角化の取組み)</p>
<p>【外部評価委員の意見、改善の提言等】</p> <ul style="list-style-type: none">・収益が上がったことは良いが、どの地域でも対応できるモデルとは言いがたい・堆肥投入のコストかかるが収穫量が増えるのではないか
<p>【意見、提言に対する対応方向等】</p> <ul style="list-style-type: none">・堆肥の散布には、マニアスプレッダーやストックヤード(堆肥の一時保管場所)も必要であり、どの地域でもこのような活動ができるわけではありません。今回モデルとして集落営農組織が堆肥散布に取り組んだが、機械装備の充実を図りつつ、周辺地域への散布へとつなげていきます。・堆肥については即効性のあるものではなく、また完全に化学肥料の代替となる物でもありませんが、近年の地力の低下は農家も実感しているところです。堆肥を散布することにより、収量の安定化、多収化が期待されます。・肥料価格が高騰している昨今、堆肥の活用への意識は高まってきています。
<p>【質問事項】</p> <ul style="list-style-type: none">・堆肥投入のメリットをどう検証していくのか
<p>【回 答】</p> <ul style="list-style-type: none">・当地域では、堆肥散布後に主に水稻、ハトムギの栽培を行っています。今後、定期的に収量調査を行い堆肥の効果を検証していきます。

普及指導活動改善内容整理表

(所属名) 南部振興局

<p>【課題名】 市場の信頼を勝ち取るキク産地の育成 (新品目導入による多様性のある花き産地の育成)</p>
<p>【外部評価委員の意見、改善の提言等】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 空きハウスを良く見るので新規就農者をいれて増反につなげて欲しい。・ 低コスト品目の導入は絶対に必要なことだ。失敗事例を検証して成功につなげて欲しい
<p>【意見、提言に対する対応方向等】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 空きハウスについては、今後空いてくることが予測されるハウスも含めて情報収集を行っています。新規就農者の初期コスト低減対策として、新規就農経営モデルの作成と併せて積極的に活用していきます。・ 花木は低コストで省力的であり、推進ターゲットも幅広い品目です。栽培適地の見極めやマーケットニーズの把握、出荷体制の確立等課題は多いですが、産地化を目指して取り組んでいきます。
<p>【質問事項】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 複合品目が消費者ニーズと合っているのかが分かりにくいところがあった。・ キクの生産性向上の対策が先に必要ではないか？・ 複合品目を栽培することで労働力の負担が増すのではないか。
<p>【回 答】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 複合品目は JA 組織と連携した市場調査に基づいて選定しているため、消費者ニーズに対応していると考えています。しかしながら、花きは嗜好品でありニーズは常に変化していくため、今後も継続して調査していく必要があります。・ 今回の発表では割愛しましたが、キクについても芽摘み作業が省力化できる新品種や燃油使用量を抑える加温技術の導入、土壌消毒方法の改良等生産性向上対策も平行して行っています。・ 複合品目はキクに比べて省力的な品目を選定しているため、1作当たりの労働力の負担は軽減されています。しかしながら、キク農家にとっては慣れない作業となるので労力、生産性を調査しながら新規導入規模を検討していきます。

普及指導活動改善内容整理表

(所属名) 豊肥振興局

<p>【課題名】 白ねぎ大規模生産者の育成と地域内作業受託体系の構築 (ねぎ産出額 100 億円プロジェクトによる白ねぎ産地の拡大)</p>
<p>【外部評価委員の意見、改善の提言等】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 県内への拡大に向けて他地域向け経営モデル（マニュアル）が必要ではないか。・ 希望者のいない農地が市外生産者と企業に振り分けられているのが気になる。
<p>【意見、提言に対する対応方向等】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 白ねぎの作付けを希望される方には、参考モデルとして経営規模に合わせて大分県経営管理指標を示しています。また、栽培マニュアルについては、R4 年度大分県版「白ねぎ栽培の手引き」が完成したため、今後各生産者等へ配布・指導を行う予定としています。さらに、各産地では作付け体系が若干異なることから、産地に合わせた栽培指導を普及指導員が行っています。・ 確保農地については、まずは地元生産者を優先してマッチングを行いますが、希望者がいない場合は、農地の有効利用の観点から地元生産者以外にも作付け希望者を募ることとしています。
<p>【質問事項】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 今後規模各拡大をする際の土地の確保についてはどう取組むのか。・ 栽培品種の選定は誰が責任を持ってしているのか？
<p>【回 答】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 農地の確保については、市役所、農業委員会、J A 及び農地中間管理機構と連携して農地情報を収集し、規模拡大意向者とのマッチングを行います。・ 栽培品種は県や J A の指導のもと、マーケットニーズや気象条件、作期等を勘案して生産者が決めています。広域育苗センターでは、苗を販売する地域で主に作られている品種を参考にして、J A 指導員と県の普及指導員が相談して生産性の高い品種に決めています。

普及指導活動改善内容整理表

(所属名) 西部振興局

<p>【課題名】 新たな園芸産地の育成 (西部地域における水田畑地化の取り組みについて)</p>
<p>【外部評価委員の意見、改善の提言等】</p> <ul style="list-style-type: none">・水田畑地化には排水が非常に大事であるため土壌断面調査は良い取り組みである。・工事の施工業者と連携をとって排水対策を適切に進めて欲しい。
<p>【意見、提言に対する対応方向等】</p> <ul style="list-style-type: none">・水田畑地化により園芸品目を安定して栽培するためには、これまで実施した土壌断面調査を通じて、土壌条件に応じた排水対策を施すことが重要だと痛感しています。今後も引き続き土壌調査を実施し、適切な排水対策による優良農地化に取り組んでいきます。・作付けする品目によって必要な作土層や適正な地下水位等が異なることから、品目に適した土壌条件について、施工業者が適切な工事ができるよう関係部署を通じて情報提供していきます。
<p>【質問事項】</p> <ul style="list-style-type: none">・隣接する水田との作業性や管理での課題があるのではないかな？・里芋とニンニクでは所得的に厳しいのではないかな。
<p>【回 答】</p> <ul style="list-style-type: none">・水稲作の水田と隣接した圃場の場合、地下からの浸透等により十分な排水対策ができない可能性もあることから、将来的には水田エリア、畑エリアで分けるゾーニングにより、排水性、作業性の改善に取り組むことが望ましいと考えています。・ご指摘のとおり、さといも、にんにくの単作では、所得確保が難しいため、西部管内ではトマト、ピーマンなどの夏秋野菜との複合品目として推進を図っているところです。夏秋野菜との組合せにより収穫時期が重ならず、長期間の収入確保が期待できます。今後は、機械化や作業委託体制の整備により個別規模の拡大を図るとともに、JAと連携して販路拡大を支援し、農家の所得向上を目指していきます。

普及指導活動改善内容整理表

(所属名) 北部振興局

【課題名】 実需ニーズに対応した北部地域茶産地の生産体制に強化 (茶園大規模造成における課題と普及からのアプローチ)
【外部評価委員の意見、改善の提言等】 <ul style="list-style-type: none">・ 事前に防げたのではないかと感じた。今後、県のマニュアルを国へ提案するなどの働きかけが必要ではないか。
【意見、提言に対する対応方向等】 <ul style="list-style-type: none">・ 茶の園地造成は、国営緊急農地再編整備事業を活用して行われ、事業実施にあたり協議を重ねてきましたが、茶に対する過去の工事例や資料が不足していたため、国の施工基準に則って事業が進められました。生育不良判明後は、抜本的な改善を図るために、これまでの試験研究データや先進地の事例を集め、十分な根拠や知見が整い、新たな基準を作ったことで改善対策も成功することができました。・ 今回完成した大分県版のマニュアルは、今後国営事業実施の際に必ず提案され、使用されるに値するものとなりました。またこのマニュアルを参考に、他の品目においても同様の提案が可能となり、品目に適した造成、園地拡大に寄与するものと考えています。
【質問事項】 <ul style="list-style-type: none">・ 今後の園地造成では、機械化等省力化に対応できる取組みはされているのか？
【回答】 <ul style="list-style-type: none">・ 近年の茶栽培はその管理作業のほとんどを乗用型機械で行っているため、機械作業に適した園地造成は必須です。今回の国営事業を含め今後の園地造成は、大きく効率的な区画設計、傾斜の緩やかな畑面施工、乗用型機械の安全な転回が可能な広い園内道の整備等により、より機械化に適するよう進められています。

普及指導活動改善内容整理表

(所属名) 地域農業振興課

<p>【課題名】 ベリーツ産地の生産力の強化 (ベリーツ生産力PTの活動について)</p>
<p>【外部評価委員の意見、改善の提言等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベリーツはまだブランド力が弱いのではないか。高単価アイテムを売りに若手生産者を中心に増やして欲しい。
<p>【意見、提言に対する対応方向等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベリーツは、栽培面積が 19ha で全国的に見て生産量が少ないものの、単価の高い年内及び 3 月までの早期収量が多いのが特徴で、特に高単価のクリスマス需要や厳寒期大玉規格に対応できる品種特性を持っています。 ・この品種特性を安定的に発揮させ、儲かるベリーツ経営体を育成するため、県内 14 カ所にモデル実証圃を設置し、生育調査を基に早期多収技術の組み立てを行っています。 ・今後は、JA と連携して講習会や現地研修会を活用し、モデル実証圃で得られた早期多収技術を各地域全体に普及・定着させる取り組みを行い、更なる儲かるベリーツ生産者を育成していきます。
<p>【質問事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベリーツの生産力向上は何によって出来たのか。 ・ベリーツの後継となる品種の育種に取り組んでいるのか。
<p>【回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベリーツの品種特性である早期多収性を発揮させるための栽培技術を組み立て、儲かるベリーツ経営体を育成するために、広域普及指導員をチームリーダーとした「ベリーツ生産力向上PT（以下PT）」を設置しました。 ・県内 14 カ所にモデル実証圃を設置し、月 2 回の生育調査及び分析を行い、今後 1 ～ 2 カ月の技術を組み立て実証する、PDCA サイクル活動を PT で繰り返し行いました。 ・また、県内各地域の課題及び技術向上の取組等の共有や、現地研修会等により、普及指導員の技術レベルの統一と底上げを図りました。 ・いちご生産者の経営安定に向けて、ベリーツの優れた形質は維持しつつ、さらに省力栽培が可能となる等の能力の付与を目指し、試験研究機関で開発に取り組んでいます。